

## スーパービジョンにおけるスーパーバイザースキルの明確化の試み

### ースーパービジョンセッションにおける逐語記録の分析からー

○ 日本福祉大学 氏名 小松尾京子 (会員番号 4895)

神林ミュキ (日本福祉大学・6095) 山口みほ (日本福祉大学・2554) 大谷京子 (日本福祉大学・2998)、

キーワード：スーパービジョン、スーパーバイザー、スキル

## 1. 研究目的

複雑多様化する問題に対応するソーシャルワーカーには、ますます高度な実践力が求められるようになっており、対人援助の専門職として成長していくためには、スーパービジョンが必要であることは今では承知されている。そのソーシャルワーカーの成長に資するスーパービジョンが質量ともに不足している現状が指摘されている。スーパービジョンの方法やスーパーバイザースキルに関する研究はいくつか見られるものの、それらは初学者がスーパービジョンを実践するための具体的指針としては抽象的である。スーパービジョン実践に関する先行研究からも、多くのスーパーバイザーが自らの実践に自信がないことが示されて (中田 2008、塩田 2013、吉田 2013) おり、スーパーバイザーのスキルの不明確さは、スーパービジョン実践が定着しにくい要因の一つと考えられる。このような状況において、スーパーバイザーのスキルを明確にすることは、スーパービジョン実践を推進するために、意義があることと考える。

本研究は、スーパービジョンを実践しているスーパーバイザーが、どのようなスキルを活用しているのかを明らかにすることを目的としている。スーパービジョンセッション中の、スーパーバイザーとスーパーバイジエーの相互作用に着目し、スーパーバイザーのスキルを明らかにする探索的な研究である。

## 2. 研究の視点および方法

スーパーバイザーのスキルについては、シュルマンのスーパービジョンモデルをベースに、岩間や塩村がそれぞれスキルを示している。本研究では、岩間と塩村によるスキルと比較検討をしながら、スーパーバイザーがどのようなスーパービジョンを実践しているのか、そのセッションを記録した逐語記録から、スーパーバイザーのスキルを抽出することとした。

研究対象は逐語データである。A 県でスーパービジョンを実践しているスーパーバイザー5名が、2010年10月から2012年9月に行ったスーパービジョンセッション5回分の逐語記録を分析対象とした。スーパーバイザーとスーパーバイジエーは同組織内に所属し、職場における上司から部下へのスーパービジョン場面である。

データの分析は、以下のとおりである。まず、スーパーバイザーはセッション中にどのようなスキルを活用しているか、逐語記録からその内容を読み込みスーパーバイザーのス

スキルに該当する部分のコーディングをした。そのうえで類似した内容をグループ化して整理した。この作業は共同研究者6名で繰り返し行った。

### 3. 倫理的配慮

倫理的配慮として、データ提供者に研究の目的、方法、意義、匿名性の確保、結果の公表の方法等について口頭と文書で説明し、研究協力への同意を得た。データに関しては、学会の研究倫理に則り、個人が特定できないよう保管しプライバシーの保護には十分配慮している。

### 4. 研究結果

分析の結果、先行研究では言及が少なかったチームアプローチのためのスキルが抽出された。チームの一員としての立ち位置や役割を意識づけるスキルを抽出した。スーパーバイザーは、シュルマンが示すように波長合わせのスキルから、ワーカーの関心ごとを把握するスキル、仕事を促進させるスキル、情報を提供するスキルなどを経て、終結のスキルへと展開していた。これらのスーパービジョンのプロセスを意識しながらも、実際の場面では、スーパーバイザーの理解度や状況に合わせて、スーパービジョンを展開していた。まずは気づきを促し、教え、大事なポイントについてはスーパーバイザーが納得するまで繰り返し伝えていた。それでも伝わらない場合は、具体的な行動レベルに落とし込んで教示していた。スーパーバイザーが理解したり納得できるまで、段階を踏んで繰り返し働きかけを行っていることが示唆された。より詳細な分析結果については、当日述べる。

### 5. 考察

スーパーバイザーはそれぞれのスーパーバイザーに合わせたスーパービジョンのセッションを展開していた。抽出されたスーパーバイザーのスキルは、スーパービジョンセッションのプロセスに沿って整理できたが、実際はこのプロセスとおりに進行し、スキルを活用していたわけではない。プロセスを意識しながらも、スーパーバイザーとのやり取りのなかで、行きつ戻りつしながら展開していることがうかがえた。

今回の研究は、スーパーバイザースキルを明らかにするための第一段階といえる。今後はこの研究で明らかにされたスーパーバイザーの具体的なスキルについて、スーパーバイザーとスーパーバイジー両者の視点からその妥当性を検証していきたい。そのうえで、スーパーバイザーとしてのスキルをより明確にし、職場内外のスーパービジョンにおいて援用できるようスキルの汎化を目指したい。

この研究は日本福祉大学スーパービジョン研究センターの助成を受けた研究成果の一部である。